

○山田^{むねと}致人(1846~1902)

＝郷土の酪農の開祖＝

明治11年(1878)、開拓使を退職し、大野に移住した。

狩猟、馬術にすぐれ、馬車、馬櫓の操作と実習、蹄鉄の指導に当たった。

牧場を向野観音山に28町歩(28^町開き、乳牛5頭を飼った。しかし、牛乳の販路の見通しがなく経営は不調に終わった。

【交通・遭難】

・澤田雪溪(1844~没年不詳)

＝江差山道工事を描いた＝

画官として函館県庁に仕えた。

明治19年(1885)、市渡から江差への鶉(江差)山道が完成した。その工事の様子を45景に描いた。石版刷りの「鶉山道図巻」は市の文化財指定となっている。

○清水三四郎(1847~81)

＝公務に殉じた＝

三四郎は檜山爾志郡役所(江差)の職員で訴訟野紙を受け取りに函館支庁へ旧江差山道を通った。野紙を背に帰路の山道で猛吹雪にあい二股岳の旅館に泊まった。

翌日出立し遭難した。明治14年2月6日のことだった。近くに頌徳碑が建っている。④風雪の峠に向かった三四郎

【文化】

○伊達林右衛門・二代目(1760~1840)

＝俳句額に名を残した＝

千代田を開墾し伊達郷を開いている。

松前藩主が崇敬した文月稻荷神社の扁額に「梅窓布席」の名が残っている。

天保3年(1832)の「神社造営由来額」に句を詠んでいる。また「俳句額」には棲雲居^{せいうんきょ}雁来^{がんらい}が詠む句があり布席と同一人物である。

⑤俳句額神社に納め無事祈る

・井田倅吉(1845~1911)

＝北海道の開拓を写した＝

写真家。大野村新井家に生まれる。

函館写真師田本研造の門人となった。明治4年(1871)、開拓使に仕えた田本は、道内各地を撮影し158枚を提出した。田本は足が不自由で倅吉が支えた。

その後写真館を開いた。

・葛木香一と光岡龍三郎

＝二人の映画スター＝

二人の兄弟は大野東鍛冶在所(南大野)で育った。

二人は芝居にあこがれ修業の後、映画界に入り、

葛木は323本、光岡は265本に出演し大正から昭和30年代まで活躍した。



葛木香一

【教育】

○竹部永松(1860~1925)

＝教育に情熱を注いだ＝

明治15年(1882)以降、地域の期待もあり、竹部塾を開発、萩野、東前と転じて開いた。永松は健康を害し、弟の嘉市に引き継いだ。

塾は萩野に移り、同33年(1900)、大野尋常高等小学校萩野分教場として、稻荷神社で授業を開始した。

大正5年(1916)、徳を称えた「竹部永松先生碑」が建った。

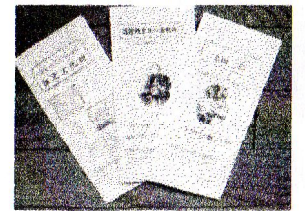
◎子どもらに先ず教育と竹部塾

○田中幸次郎(1866~1914)

＝大野小学校の基盤を作った＝

明治20年(1887)、大野小学校長として赴任した。国の方針に沿って道内最初の農業補習学校が同校内に設立され、校長を兼務した。

同35年視学となり、同40年再び大野小学校に就いた。学校林の植樹・管理など経済的基盤作りに貢献した。



資料館にある各種リーフレット